



月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222)7207 番

93.4.12 No.3775



組織拡大に全力を!

動労総連合がオワ7回定期中央委員会を開催

四月八日、千葉県労働者福祉センターにおいて、第7回動労総連合定期委員会が開催された。委員会には、水戸、高崎、西日本、千葉の各委員が出席し、活発な議論を交わされ、「六〇才まで働ける労働条件の確立、組織拡大・強化」を中心とする当面する取り組みを満場一致で決定した。委員会は、議長に的場委員(千葉)を選出し、議事が行なわれた。まず、水野委員長が挨拶し、「J

各単組地方報告

西日本「動乗勤の改悪提案に対し、11・28ストを行なってきた。闘いの過程で、一名の組合員を獲得し、動労西日本の路線の正しさを確信した。11・28ストのスト破りをJR総連西労が行なった。JR総連西労が一月、三月とストを行なったが、動乗勤改悪と闘うものではないことは、このスト破りの姿からも明らかである。また、広島地労委闘争において、勝利命令を獲得した。完全勝利に向け、中労委において全力を尽くす。ぜひ支援をお願いする。」

水戸「正月明けからブルトニウム阻止の闘いに立ち、また、職場においては、九三・三ダイ改阻止闘争に打ち上がった。年明けより、職場・街頭と闘いにつく闘いであった。ダイ改は、乗務員・検修を直撃する労働強化・合理化としてあった。運転士に対しては、水戸―上野間を乗務して、上野で折り返し時間が四〇分前後しかない」と

R総連の危機がより一層進行している。動労総連合の路線の正しさと闘いの実績は日々職場に浸透している。だが、このことに満足することなく、動労総連合の戦列に新しい仲間を組み入れていくことが緊急の課題だ。」と組織拡大に向けて全力で取り組むことを訴えた。続いて、平岡委員長の吉舎町町議選の当選御礼、各単組の闘いの地方報告、経過・方針提起等質疑応答が行なわれた。



いうダイヤが一〇本以上ある。また、検修職場では、電車交換体制を変更し、車両係に車両技術係の業務を行なわせるという提案であった。こうした合理化につき、団交の場で問題点を追及する一方、職場において、合理化反対の署名を集め支社長、区長に突き付けてきた。水戸としては、運転士登用差別が大きな問題となっている。JR体制に打撃を与えていく闘い

事実上の業務移管「4月ダイヤ改強行弾劾」

を展開していく。」
高崎「四・一ストを全員で闘い抜いてきた。当初は役員だけのストとして構えたが、全員の議論のなかで、全員で闘うことという結論となった。また、ストと合わせ、デモ、街頭宣伝を行ない、われわれの『朝鮮学校への通学定期差別をやめろ。』などの要求に支持が寄せられている。二月には籠原駅で、二一型電車のポイント脱線

が発生している。原因ははっきりしないが、競合脱線だとしている。しかし、調査の過程で検修区と保線区で事故原因の見えないすりあいをやっているのが現実だ。分割・民営化の過程で高崎は旧動労の率先協力によって全国で一番早く合理化が進められた。その現実が変わっていない。組織拡大強化をかちとる。PKO第三次派兵は、東部方面隊だとされている。朝霞基地闘争を全力で取り組む。」

業務移管の量
が示す聖域化
・塩づけH動
労千葉破壊の
実態!!

これほど歪みきつた「施策」が罷り通るところに、「JR体制」が全国鉄労働者の真の打倒対象であることが示されている。われわれは、今春季連続闘争で切り拓いてきた展望を拡大する、反転攻勢の舞台が到来している状況を、自らの闘いでさらに増幅・共鳴させよう!

「JR体制」こそ、**全国鉄労働者の打倒対象**